

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ZENT梅坪店 (遊技場棟)	階数	地上2階
建設地	愛知県豊田市東梅坪町一丁目1-1 (他41筆)	構造	S造
用途地域	準住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年9月20日
敷地面積	11,678 m ²	作成者	大竹 好久
建築面積	4,095 m ²	確認日	2022年9月20日
延床面積	5,116 m ²	確認者	大竹 好久



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.4

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										2.6	
Q1 室内環境										2.8	
1 音環境										3.0	
1.1 室内騒音レベル					3.0	-	-	-	-		
1.2 遮音					1.0	3.0	1.00	-	-		
1 開口部遮音性能					-	3.0	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能					-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	-	-		
1.3 吸音					-	-	-	-	-		
2 温熱環境										2.2	
2.1 室温制御					0.4	2.2	0.47	-	-		
1 室温					0.5	2.7	0.50	-	-		
2 外皮性能					3.0	3.0	0.38	-	-		
3 ゾーン別制御性					3.0	2.0	0.25	-	-		
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.38	-	-		
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式					3.0	1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境										-	
3.1 昼光利用					-	-	-	-	-		
1 昼光率					3.0	-	-	-	-		
2 方位別開口					-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備					3.0	-	-	-	-		
3.2 グレア対策					-	-	-	-	-		
1 昼光制御					5.0	-	-	-	-		
3.3 照度					3.0	-	-	-	-		
3.4 照明制御					3.0	-	-	-	-		
4 空気質環境										3.5	
4.1 発生源対策					0.3	3.5	0.33	-	-		
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用している	0.5	4.0	0.50	-	-		
4.2 換気					0.3	3.0	0.30	-	-		
1 換気量					3.0	3.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能					3.0	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理					0.2	3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視					3.0	3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御					3.0	3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能										3.6	
1 機能性										4.0	
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性					0.4	3.0	0.40	-	-		
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画					3.0	3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性					0.3	5.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	-		
3 内装計画				取組の表の合計が4ポイント	3.0	5.0	1.00	-	-		
1.3 維持管理					0.3	4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				取組の表の合計が9ポイント	3.0	5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				取組の表の合計が8ポイント	-	4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性										3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.3	3.2	0.31	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					0.4	3.0	0.48	-	-		
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.80	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.7	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			ALC+吹付タイル(耐用年数35年)	-	5.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				主要な用途上位3種は全てB種を採用	-	5.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23	-	-		
2.4 信頼性					0.1	3.0	0.19	-	-		
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備					3.0	2.0	0.20	-	-		
3 電気設備					3.0	3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法	②			重要機器の耐震クラスをAとしている	3.0	4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備					3.0	3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	-	-	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.09	3.0	5.0	1.00	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	1.0	0.40	-	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.9	3.0	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.92	3.0	2.4	0.30	-	-	-	2.4
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ+節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.2	0.63	-	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減		QLデッキの採用	-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡材を用いた断熱材を使用していない	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を採用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	適切な駐車・駐輪台数と出入口を分散化している	-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10
② 資源の有効活用			3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ZENT梅坪店（遊技場棟）

計画上の配慮事項	
総合	適切な厚みの断熱材及び高効率機器を採用することで、外皮及び一次エネルギーの基準を満たす建築物としている。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を積極的に採用することで、良好な室内空間となるように配慮した。
Q2 サービス性能	維持管理を容易とする為に、適切な室の配置計画及び部材の選定を行った。
Q3 室外環境(敷地内)	特に無し
LR1 エネルギー	BPI=0.90 BEI=0.92
LR2 資源・マテリアル	節水に配慮した機器を選定することで、省資源化に寄与した。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を設けないことで、大気汚染防止に寄与した。
その他	特に無し